




**OpenManage Integration for VMware vCenter Using
the vSphere Client
Quick Install Guide Version 2.1**



メモ、注意、警告

-  **メモ:** コンピュータを使いやすくするための重要な情報を説明しています。
-  **注意:** ハードウェアの損傷やデータの損失の可能性を示し、その問題を回避するための方法を説明しています。
-  **警告:** 物的損害、けが、または死亡の原因となる可能性があることを示しています。

© 2013 Dell Inc.

本書に使用されている商標 : Dell™、Dell のロゴ、Dell Boom!™、Dell Precision™、OptiPlex™、Latitude™、PowerEdge™、PowerVault™、PowerConnect™、OpenManage™、EqualLogic™、Compellent™、KACE™、FlexAddress™、Force10™ および Vostro™ は Dell Inc. の商標です。Intel®、Pentium®、Xeon®、Core® および Celeron® は米国およびその他の国における Intel Corporation の登録商標です。AMD® は Advanced Micro Devices, Inc. の登録商標、AMD Opteron™、AMD Phenom™ および AMD Sempron™ は同社の商標です。Microsoft®、Windows®、Windows Server®、Internet Explorer®、MS-DOS®、Windows Vista® および Active Directory® は米国および/またはその他の国における Microsoft Corporation の商標または登録商標です。Red Hat® および Red Hat® Enterprise Linux® は米国および/またはその他の国における Red Hat, Inc. の登録商標です。Novell® および SUSE® は米国およびその他の国における Novell, Inc. の登録商標です。Oracle® は Oracle Corporation またはその関連会社、もしくはその両者の登録商標です。Citrix®、Xen®、XenServer® および XenMotion® は米国および/またはその他の国における Citrix Systems, Inc. の登録商標または商標です。VMware®、vMotion®、vCenter®、vCenter SRM™ および vSphere® は米国またはその他の国における VMware, Inc. の登録商標または商標です。IBM® は International Business Machines Corporation の登録商標です。

2014

Rev. A06


Contents

1 インストールのクイックスタート	4
インストールについて.....	4
作業を開始する前に.....	4
製品ハードウェア要件.....	5
ソフトウェア要件.....	5
インストールと設定の概要.....	5
2 ウィザードを使用した OpenManage Integration for VMware vCenter の設定方法について	14
設定ウィザードようこそページ.....	14
新規接続プロファイルの作成ウィザード.....	14
イベントおよびアラームの設定ウィザード.....	16
プロキシサーバーの設定ウィザード.....	17
インベントリジョブのスケジュールウィザード.....	17
保証取得ジョブウィザードの実行.....	18
展開資格情報の設定ウィザード.....	18
デフォルトのファームウェアアップデートリポジトリの設定ウィザード.....	19
OMSA リンクの有効化ウィザード.....	19
Dell iDRAC 自動検出および初期始動の設定.....	20
トラップを送信するための OMSA エージェントの設定.....	20
NFS 共有の設定.....	20
設定情報の詳細について.....	20

インストールのクイックスタート

インストールについて


本ガイドは、OpenManage Integration for VMware vCenter の Dell サーバーへのインストールを順を追って説明しています。インストールが完了した後は、インベントリ管理、監視とアラート、ファームウェアアップデート、展開とプロビジョニング、および保証管理を含むすべての管理面に関する情報について、『OpenManage Integration for VMware vCenter User's Guide』（OpenManage Integration for VMware vCenter ユーザーズガイド）を参照してください。

 **メモ:** PowerEdge 第 12 世代サーバー上のホストへのインストールでは、OMSA エージェントのインストールは必要ありません。PowerEdge 第 11 世代サーバーへのインストールでは、展開プロセス中に OMSA エージェントが自動的にインストールされるようになりました。OMSA について詳細は、『OpenManage Integration for VMware vCenter User's Guide』（OpenManage Integration for VMware vCenter ユーザーズガイド）の「第 11 世代ホスト向けの OMSA について」の項を参照してください。PowerEdge 第 12 世代サーバーおよび第 12 世代より前のホストをより良く理解するには、本リリースのリリースノートを参照してください。

作業を開始する前に

次の情報は、OpenManage Integration for VMware vCenter のインストールを開始する前に必要な情報です。

- OpenManage Integration for VMware vCenter 仮想アプライアンスに割り当てる TCP/IP アドレス情報。
- OpenManage Integration for VMware vCenter が vCenter Server にアクセスするためのユーザー名およびパスワード。これは、すべての必要な許可を持つ管理者役割である必要があります。vCenter 内で使用できる OpenManage Integration for VMware vCenter 役割についての詳細は、『User's Guide』（ユーザーズガイド）の「OpenManage Integration for VMware vCenter の設定」の章を参照してください。
- ESX/ESXi ホストシステムのルートパスワード。
- iDRAC Express または Enterprise に関連付けられたユーザー名およびパスワード（iDRAC を含むホストシステム用のみ）。
- vCenter サーバーおよび vSphere クライアントが現在実行中であることを確認してください。
- OpenManage Integration for VMware vCenter OVF ファイルの場所を確認してください。
- 仮想アプライアンスに登録される vCenter インスタンスによって管理されている、すべての ESX/ESXi ホスト上に OpenManage Integration for VMware vCenter（仮想アプライアンス）をインストールしてください。
- VMware vSphere 環境は仮想アプライアンス、ポートアクセス、およびリスニングポートの各要件に合致する必要があります。さらに、vSphere Client システムに Adobe Flash player 10.0 またはそれ以降のバージョンをインストールします。

 **メモ:** 通常の仮想マシンとしての仮想アプライアンスの機能。中断またはシャットダウンは、仮想アプライアンスの全体的な機能に影響を与えます。

製品ハードウェア要件

OpenManage Integration for VMware vCenter は iDRAC 搭載の第 11 および 12 世代 Dell サーバーに対する完全サポートを提供し、第 9 および 10 世代 Dell サーバーに対しては限定的なサポートを提供します。お使いの Dell サーバーの世代を確認するには、リリースノートの表を参照してください。特定のハードウェアサポート情報については、『*OpenManage Integration for VMware vCenter Release Notes*』（OpenManage Integration for VMware vCenter リリースノート）を参照してください。


ソフトウェア要件

vSphere 環境は、仮想アプライアンス、ポートアクセス、およびリスニングポート要件を満たす必要があります。

VMware vSphere にはデスクトップクライアントとウェブクライアントの両方があります。

デスクトップクライアント向けの要件

- vSphere Client システムに Adobe Flash Player 10.0 またはそれ以降をインストールします。

 **メモ:** OpenManage Integration for VMware vCenter と vCenter Server は、同じネットワーク上にあることが推奨されます。

具体的なソフトウェア要件については、『*OpenManage Integration for VMware vCenter Release Notes*』（OpenManage Integration for VMware vCenter リリースノート）を参照してください。

OpenManage Integration for VMware vCenter のポート要件

- 443 (https) および 80 (http) - 管理コンソール用
- 4433 (https) - 自動検出およびハンドシェイク用
- 162 および 11620 - SNMP トラップリスナー用
- 2049、4001、4002、4003、4004 - NFS 共有用

インストールと設定の概要

次の高レベルの手順は、OpenManage Integration for VMware vCenter の全体的なインストール方法の概要を説明しています。これらの手順では必須ハードウェアが取り付け済みで、必須 VMware vCenter ソフトウェアが実行中であることを前提としています。PowerEdge 第 12 世代サーバーへのインストールでは、OMSA エージェントのインストールは必要ありません。PowerEdge 第 11 世代サーバーへのインストールでは、展開および準備プロセス中に OMSA エージェントが自動的にインストールされるようになりました。OMSA について詳細は、『*OpenManage Integration for VMware vCenter User's Guide*』（OpenManage Integration for VMware vCenter ユーザーズガイド）を参照してください。

次の情報は、インストールプロセスの概要です。実際のインストールを開始するには、「[vSphere Client を使用した OpenManage Integration OVF の展開](#)」を参照してください。


インストールの概要

1. OpenManage Integration for VMware vCenter をインストールします。
 - a. システムは接続済みであること、および vCenter サーバーおよび vSphere クライアントが実行中であることを確認してください。
 - b. vSphere Client を使用して、OpenManage Integration for VMware vCenter が含まれる Open Virtualization Format (OVF) ファイルを展開します。
 - c. ライセンスファイルをアップロードします。
 - d. 管理コンソールを使用して OpenManage Integration for VMware vCenter を vCenter Server に登録します。

2. 初期設定ウィザードを完了します。
3. 追加されたホストの準拠性をチェックします。

vSphere Client を使用した OpenManage Integration for VMware vCenter OVF の展開

この手順は、製品 zip ファイル（Dell_OpenManage_Integration_<バージョン番号>.<ビルド番号>.zip）が Dell ウェブサイトからダウンロードおよび解凍されていることを前提としています。

 **メモ:** シックプロビジョン Eager Zeroed はこのインストールに推奨されるディスクの形式です。

vSphere Client を使用して OpenManage Integration for VMware vCenter OVF を展開するには、次の手順を実行します。

1. ダウンロードして解凍した OpenManage Integration for VMware vCenter 仮想ディスクの場所を検索し、**Dell_OpenManage_Integration.exe** を実行します。
2. EULA に同意してユーザーガイドを抽出し、OVF ファイルを取得します。
3. アプライアンスをアップロードする VMware vSphere ホストへのアクセスが可能な場所に、OVF ファイルをコピー / 移動します。
4. VMware vSphere クライアントを開始します。
5. VMware vSphere クライアントから、**ファイル → OVF テンプレートの展開** を選択します。

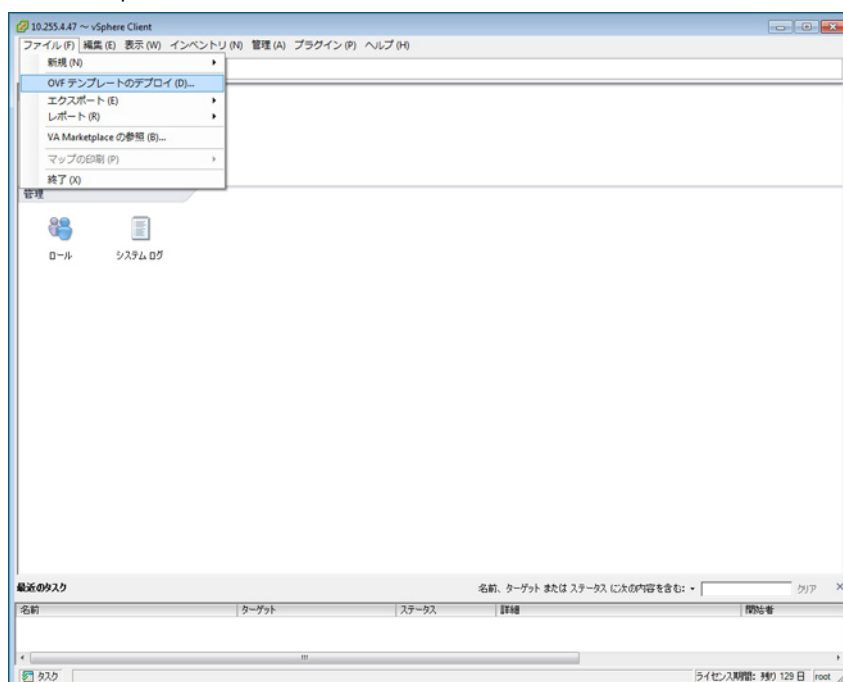



図 1. vSphere からの OVF テンプレートの展開

6. ソース ウィンドウで、**参照** ボタンを使用して OVF パッケージの場所を確認します。この場所はローカルドライブ、ネットワークドライブ、CD/DVD、またはインターネット上の場所である場合があります。OpenManage Integration for VMware vCenter のファイルサイズは約 1.9 GB です。


 **メモ:** OVF パッケージがネットワーク共有にある場合、インストールには 10~30 分かかります。短時間でインストールしたい場合は、OVF をローカルドライブでホストすることをお勧めします。

7. **次へ** をクリックします。
8. **OVF テンプレートの詳細** ウィンドウで、表示される情報を確認します。
9. **次へ** をクリックします。

10. **名前と場所**ウィンドウで次の手順を実行します。
 - a. **名前** テキストボックスで、テンプレートの名前を入力します。この名前は半角文字で **80** 文字以下となるようにします。
 - b. **インベントリの場所** リストで、テンプレートを保存する場所を選択します。
11. **次へ** をクリックします。
12. vCenter の設定に応じて、次のオプションの1つが表示されます。
 - リソースプールが設定されている場合 — リソースプールのページで、**OpenManage Integration for VMware vCenter** の展開先となる仮想サーバーのプールを選択してください。
 - リソースプールが設定されていない場合 — ホスト/クラスタのページで、**OpenManage Integration for VMware vCenter** の展開先となるホストまたはクラスタを選択してください。
13. ホストで複数のデータストアが使用可能である場合は、**ストレージ** ページが表示されます。**OpenManage Integration for VMware vCenter** ファイルを保存する場所を選択し、**次へ** をクリックします。
14. **ディスクフォーマット** ウィンドウで、次のフォーマットを選択して仮想ディスクを保存します。
 - a. **シックプロビジョン Eager Zeroed [推奨]**
Eager-zeroed シックディスクには、作成と同時にすべての容量が割り当てられてゼロが書き込まれています。このディスクタイプは、ディスクを作成する時間が長くかかりますが、各ブロックに対する最初の書き込み時でさえも、最高のパフォーマンスが得られます。
15. **次へ** をクリックします。
16. 送信元および宛先ネットワークについての詳細が記載されている **ネットワークマッピング** ページが表示されます。**次へ** をクリックします。
17. **完了準備** のウィンドウで、選択済みの **OVF** 展開タスクのオプションを確認し、**終了** をクリックします。展開ジョブが実行し、ジョブの進捗状況を追跡できる場所に完了ステータスウィンドウが表示されます。**展開後に電源をオンにする** チェックボックスを選択し、展開後に **OpenManage Integration** の電源をオンにします。

OpenManage Integration for VMware vCenter の登録とライセンスファイルのインポート

この手順は、download_software@dell.com から電子メールの添付としてライセンスを受け取っていることを前提としています。複数のライセンスをお持ちの場合は、ライセンスを続けて追加することができます。本手順ではライセンス XML ファイルが使用され、ハードコーディングされたファイル名はありません。

 **メモ:** アップロードに個々のライセンス XML を使用することはできないので、その代わりに圧縮ファイルに含まれたライセンス XML を使用します。一部のエディタでは、ファイルの転送時または編集時、ライセンス末尾に NULL 文字列が追加される場合があることから、XML パーサーによって認識されません。

1. vSphere Client から **ホーム** → **ホストとクラスタ** を選択し、左ペインで先ほど展開した **OpenManage Integration** の場所を特定して、**仮想マシンの電源をオンにする** をクリックします。
2. メインの VMware vCenter ウィンドウの **コンソール** タブをクリックして、管理コンソールを起動します。
3. **OpenManage Integration for VMware vCenter** が起動を終了するまで待ち、管理者のユーザー名（デフォルトは Admin）を入力してパスワードを設定します。
4. **OpenManage Integration for VMware vCenter** のネットワークおよびタイムゾーン情報を設定します。

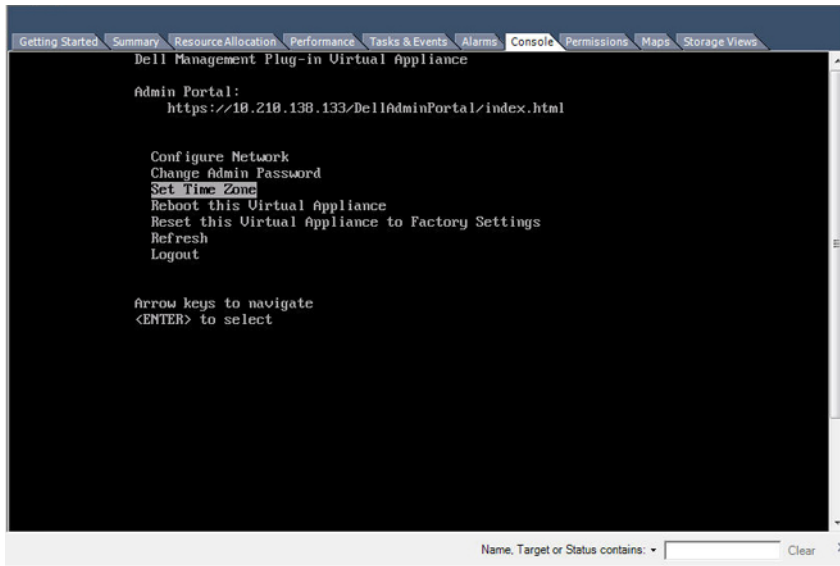


図 2. コンソールタブ

5. ウェブブラウザを開き、アプライアンスの IP アドレスまたはホスト名をタイプします。
例えば、<https://10.210.126.120> or <https://myesxihost> となります。URL は大文字と小文字を区別します。

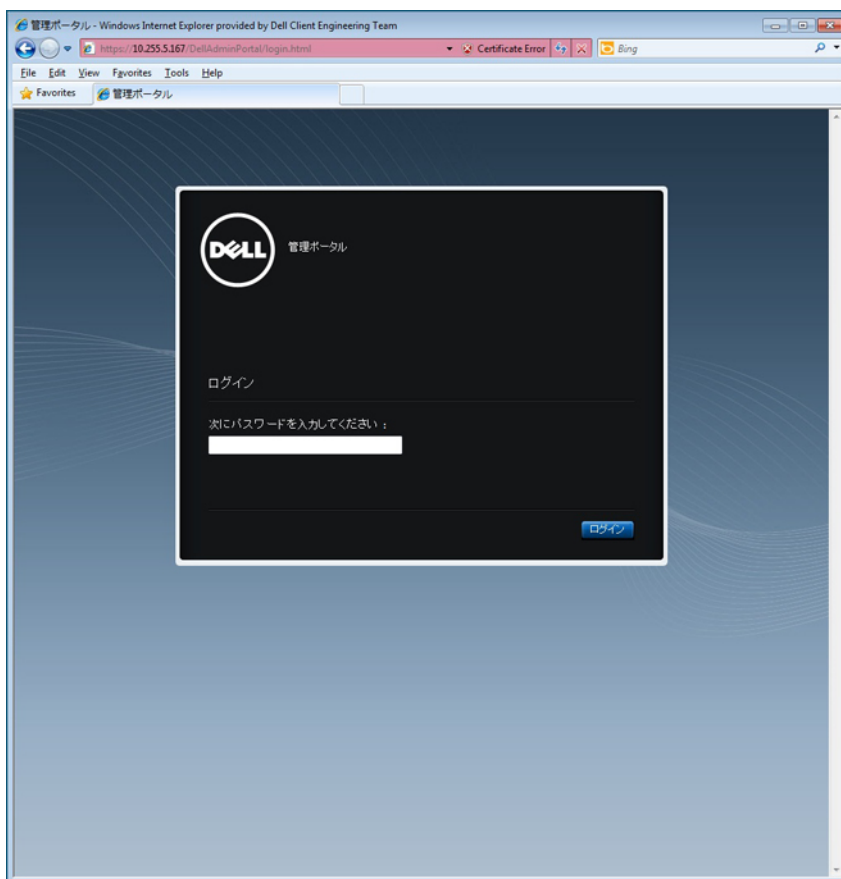


図 3. 管理コンソール

6. 管理コンソールのログインウィンドウでパスワードを入力し、**ログイン**をクリックします。

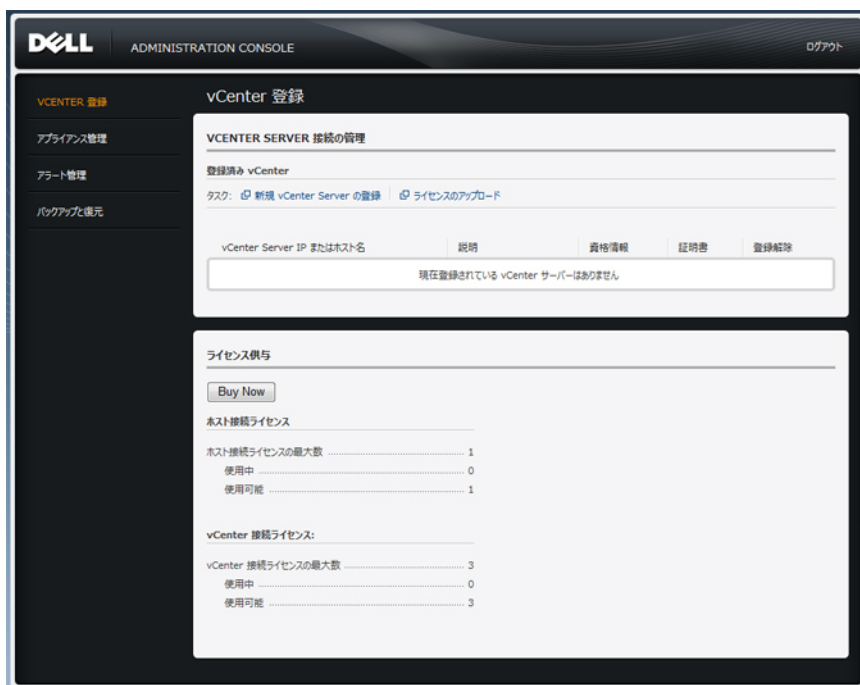



図 4. 管理コンソール内からの vCenter 登録ウィンドウ

7. **vCenter 登録** ウィンドウで、**新規 vCenter Server の登録** をクリックします。
8. **新規 vCenter の登録** ウィンドウで、次の手順を実行します。
 - a. **vCenter の名前** で、**vCenter サーバー IP またはホスト名** テキストボックスにサーバー IP またはホスト名を入力した後で、**説明** テキストボックスにオプションの詳細説明を入力します。
 - b. **管理者ユーザーアカウント** の **管理者ユーザー名** テキストボックスに、管理者ユーザー名を入力します。ユーザー名は、ドメイン\ユーザー、ドメイン/ユーザー、またはユーザー@ドメインの形式で入力してください。管理者ユーザーアカウントは **OpenManage Integration for vCenter** 管理によって使用されます。
 - c. **パスワード** テキストボックスにパスワードを入力します。
 - d. **パスワードの確認** テキストボックスにパスワードを再度入力します。
9. **登録** をクリックします。
10. 次の手順のいずれか 1 つを実行します。
 - **OpenManage Integration for VMware vCenter** の評価バージョンをお使いの場合は、手順 12 に進みます。
 - 完全製品バージョンをお使いの場合は、ライセンスファイルが E-メールで送付されるので、このライセンスを仮想アプライアンスにインポートする必要があります。ライセンスファイルをインポートするには、**ライセンスのアップロード** をクリックします。
11. **ライセンスのアップロード** ウィンドウで **参照** ボタンをクリックしてライセンスファイルの参照先を指定します。**アップロード** をクリックしてライセンスファイルをインポートします。

 メモ:

- ライセンスファイルが何らかの形で変更または編集されている場合、ライセンスファイルは機能しないので、元のご注文番号、SKU 番号、およびアカウント番号とともに **download_software@dell.com** まで電子メールをご送付いただく必要があります。
- アップロードに個々のライセンス XML を使用することはできないので、その代わりに圧縮ファイルに含まれたライセンス XML を使用します。一部のエディタでは、ファイルの転送時または編集時、ライセンス末尾に NULL 文字列が追加される場合があることから、XML パーサーによって認識されません。

12. OpenManagement Integration for VMware vCenter が登録されたら、vCenter ホームページの **管理** カテゴリに OpenManagement Integration アイコンが表示されます。

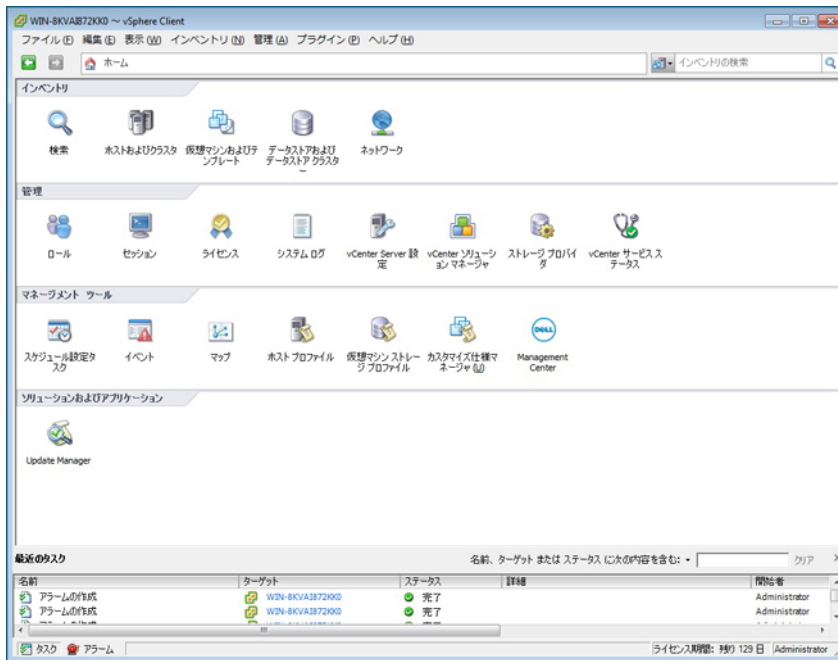


図 5. OpenManagement Integration for VMware vCenter が vCenter に正常に追加されました。

インストールの検証

次の手順は OpenManagement Integration for VMware vCenter のインストールが正常に行われたことを検証します。

1. vSphere Client ウィンドウをすべて閉じ、新しい vSphere Client を開きます。
2. OpenManagement Integration アイコンが vSphere Client 内に表示されることを確認します。
3. vCenter Server から仮想アプライアンス IP アドレスまたはホスト名宛てに ping コマンドの実行を試行して、vCenter が OpenManagement Integration for VMware vCenter と通信可能であることをチェックします。
4. vSphere Client で **プラグイン** → **管理対象プラグイン** をクリックします。プラグインマネージャ ウィンドウで OpenManagement Integration for VMware vCenter がインストール済みで有効化されていることを検証します。

OpenManagement Integration Plug-In の 2.0 バージョンから現在のバージョンへのアップグレード

1. 次のいずれかの方法を使用して、仮想マシンの管理コンソールを開きます。
 - ブラウザのウィンドウを開き、設定する仮想マシンの管理コンソール URL を入力します。管理コンソール URL は、**vSphere vCenter コンソール** タブに表示されます。

- **Dell 管理コンソール** → **設定** ページのリンクを使用します。
URL は `https://<アプライアンス IP アドレス>` 形式を使用し、大文字小文字を区別します。
- 2. **管理コンソール** の左ペインで、**アプライアンス管理** をクリックします。
- 3. 仮想アプライアンスをアップグレードするには、次のいずれかを実行します。
 - デフォルトのアップデートリポジトリのパスで利用できる **RPM** を使用してアップグレードするには、**アプライアンスの設定** で、**仮想アプライアンスのアップデート** をクリックして、手順 7 に進みます。
 - ダウンロードした最新の **RPM** を使用してアップグレードするには、**アプライアンスの管理** ページで、**編集** をクリックし、**RPM** が含まれているパスを入力します。
- 4. **RPM フォルダ/ファイル** を別の **HTTP** の場所にダウンロードした場合は、リポジトリのパスを変更します。変更されたパスは、リポジトリの場所のデフォルトパスで指定したフォルダを指している必要があります。
- 5. この変更を保存するには、**適用** をクリックします。
- 6. 仮想アプライアンスにアップデートを適用するには、**アプライアンスの設定** で、**仮想アプライアンスのアップデート** をクリックします。
- 7. **アプライアンスのアップデート** ダイアログボックスで、**アップグレード** をクリックします。
アップグレード をクリックした後、管理コンソールからログオフされます。

Migration Path to migrate from 1.6/1.7 to 2.1

OpenManage Integration for VMware vCenter version 2.1 is an OVF release only. There is no RPM update path from the older versions to this version. You can migrate from older version (1.6 or 1.7) to the version 2.1 release using the Backup and Restore path. Also, the migration path is only supported from version 1.6 and 1.7. If you are at a lower version than 1.6, you will have to upgrade your appliance to the supported version before you perform the migration to OpenManage Integration for VMware vCenter version 2.1.

Do the following to migrate from older version to the OpenManage Integration for VMware vCenter 2.1 version:

1. Take a Backup of the database for the older release. For more information, See the section, **Managing Backup and Restore** in this guide.
2. Power off the older appliance from the vCenter.

NOTE:

Do not unregister the Plug-in from the vCenter. Unregistering the plug-in from the vCenter will remove all the Alarms registered on the vCenter by the plug-in and remove all the customizing performed on the alarms like actions and so on, on the vCenter. For more information, see the section **How to recover if I have unregistered the older plugin after the backup** in this guide if you have already unregistered the Plug-ins after the backup.

3. Deploy the new OpenManage Integration version 2.1 OVF. For more information, see the section **Deploying the OpenManage Integration for VMware vCenter OVF Using the vSphere Client** in this guide to deploy the OVF.
4. Power on the OpenManage Integration version 2.1 appliance.
5. Setup the network, time zone and so on to the appliance. It is recommended that the new OpenManage Integration version 2.1 appliance has the same IP address as the old appliance. To setup the network details, see the section, **Registering OpenManage Integration for VMware vCenter And Importing The License File** in this guide.
6. Restore the database to the new appliance. For more information, see the section, **Restoring The Database From A Backup** in this guide.
7. Upload the new license file. For more information, see the section, **Registering OpenManage Integration for VMware vCenter And Importing The License File** in **OpenManage Integration Version 2.1 Quick Install Guide**.
8. Verify the appliance. For more information, see the section **Installation Verification** in this guide to ensure the database migration is successful.
9. Run the Inventory on all the registered vCenters.


 **NOTE:**

It is recommended that you run the inventory on all the hosts managed by the plug-in again after the upgrade. For more information, see the section **Running Inventory Jobs** for steps to run the inventory on demand.

If the IP address of the new OpenManage Integration version 2.1 appliance has changed from that of the old appliance, the trap destination for the SNMP traps must be configured to point to the new appliance. For 12G servers, this will be fixed by running the Inventory on these hosts. For all 11G or lower generation hosts that were earlier complaint, this IP change will show up as non-complaint and will require configuring OMSA. For more information, see the section, **Running the Fix Non-Compliant vSphere hosts Wizard** to fix the host compliance in the this guide.

Recovering the unregistered older plug-in after the backup

If you have unregistered the plug-ins after taking backup of the database of the older version, perform the following steps before proceeding with the migration.

 **NOTE:** Unregistering the plug-in has removed all the customizing that was done on the registered alarms by the plug-in. The following steps will not be able to restore the customizing, however, it will re-register the alarms in the default state.

1. Perform the steps 3-5 in the section Migration Path to migrate from 1.6/1.7 to 2.1 in this chapter.
2. Register the plug-in to the same vCenters that you had registered earlier in the older plug-in.
3. Proceed with step 6 through step 9 in the section Migration Path to migrate from 1.6/1.7 to 2.1 in this chapter to complete the migration. For more information, see the section Migration Path to migrate from 1.6/1.7 to 2.1 in OpenManage Integration Version 2.1 Quick Install Guide.

ウィザードを使用した OpenManage Integration for VMware vCenter の設定方法について

OpenManage Integration for VMware vCenter の基本的なインストール後は、これを設定する必要があります。これは通常設定ウィザードを使用して行いますが、Dell Management Center 設定オプションの設定ページオプションを使用して行うこともできます。

両エリアのユーザーインターフェイスは似ていますが、ウィザードでは保存して続行をクリックするのに対し、設定オプションでは適用をクリックします。

本項では、ウィザードを使用した設定方法について説明します。OpenManage Integration for VMware vCenter を設定するために Dell Management Center の設定オプションを使用することについての情報は、『OpenManage Integration for VMware vCenter User's Guide』（OpenManage Integration for VMware vCenter ユーザーズガイド）を参照してください。

設定ウィザード使用の設定タスク

これらのタスクは、設定ウィザードを使用して OpenManage Integration for VMware vCenter を設定するとき使用してください。

1. 設定ウィザードようこそページ
2. インベントリジョブのスケジュール
3. 保証取得ジョブの実行
4. 展開資格情報の設定
5. デフォルトファームウェアアップデートリポジトリの設定
6. OMSA リンクの有効化


設定ウィザードようこそページ


OpenManage Integration for VMware vCenter をインストールした後、設定を行う必要があります。

1. vSphere Client の管理 で、Dell Management Center アイコンをクリックします。
2. 初めて Dell Management Center アイコンを実行する場合、設定ウィザードが開きます。このウィザードには、Dell Management Center → 設定 ページでアクセスすることもできます。
3. ようこそタブで、これから実行する手順を確認し、次へをクリックします。

新規接続プロファイルの作成ウィザード


接続プロファイルは、仮想アプライアンスが Dell サーバーと通信するのに使用する資格情報を保存します。各 Dell サーバーは、OpenManage Integration for VMware vCenter によって管理される接続プロファイルに関連付けられている必要があります。複数のサーバーを1つの接続プロファイルに割り当てることができます。接続プロファイルの作成方法は、設定ウィザードと Dell Management Center、設定オプションではほぼ同様です。


 **メモ:** 第 12 世代サーバー使用のホストでのインストールでは、OMSA エージェントのインストールは必要ありません。第 11 世代サーバーへのインストールでは、OMSA エージェントは展開プロセス中に自動的にインストールされるようになりました。

 **メモ:** 追加されたホスト数がライセンス制限を超過した場合、接続プロファイルを作成できます。

接続プロファイルで Active Directory 資格情報を使用する前に、Active Directory に Active Directory ユーザーアカウントが存在し、このアカウントが iDRAC で既に有効化されている必要があります。このウィザードは、Active Directory アカウントの作成、または iDRAC における Active Directory の有効化用ではありません。ウィザードを使用する新規接続プロファイルの作成には、以下を行います。

1. **接続プロファイル** タブで、**新規作成** をクリックします。
2. **プロファイル名と説明** ページで、カスタム接続プロファイルの管理に役立つ **接続プロファイル名** とオプションの **接続プロファイルの説明** を入力します。
3. **関連ホスト** ページで、接続プロファイルのホストを選択し、**次へ** をクリックします。
4. **資格情報** ページで、情報を読んでから **次へ** をクリックします。
5. iDRAC ページの資格情報で、次のいずれかを実行します。

 **メモ:** iDRAC アカウントには、ファームウェアのアップデート、ハードウェアプロファイルの適用、およびハイパーバイザの展開に管理者権限が必要です。

- 使用する Active Directory 用に iDRAC の設定および有効化が Active Directory ですすでに行われている場合は、**Active Directory を使用する** チェックボックスを選択します。それ以外は、iDRAC 資格情報の設定に進みます。
 - **Active Directory ユーザー名** テキストボックスに、ユーザー名を入力します。ユーザー名は、ドメイン\ユーザー名、ドメイン/ユーザー名、またはユーザー名@ドメインのいずれかの形式で入力してください。ユーザー名は 256 文字に制限されています。ユーザー名の制限については、Microsoft Active Directory マニュアルを参照してください。
 - **Active Directory パスワード** テキストボックスにパスワードを入力します。パスワードは 127 文字に制限されています。
 - **パスワードの確認** テキストボックスにパスワードを再度入力します。
 - 証明書チェックのドロップダウンリストから、次のいずれかを選択します。
 - * 今後すべての接続の際に iDRAC 証明書をダウンロードおよび保存して、証明書の検証を行うには、**有効** を選択します。
 - * 証明書のチェックを行わず、保存しない場合は、**無効** を選択します。
- Active Directory なしで iDRAC 資格情報を設定するには、次のいずれかを行います。
 - **ユーザー名** テキストボックスにユーザー名を入力します。ユーザー名は 16 文字に制限されています。お使いのバージョンの iDRAC におけるユーザー名の制限についての情報は、iDRAC マニュアルを参照してください。
 -  **メモ:** ローカル iDRAC アカウントには、ファームウェアのアップデート、ハードウェアプロファイルの適用、およびハイパーバイザの展開に管理者権限が必要です。
 - **パスワード** テキストボックスにパスワードを入力します。パスワードは 20 文字に制限されています。
 - **パスワードの確認** テキストボックスにパスワードを再度入力します。
 - 証明書チェックのドロップダウンリストから、次のいずれかを選択します。
 - * 今後すべての接続の際に iDRAC 証明書をダウンロードおよび保存して、証明書の検証を行うには、**有効** を選択します。

* iDRAC 証明書のチェックを行わず、保存しない場合は、**無効**を選択します。

6. **次へ**をクリックします。

7. ホスト資格情報ページの資格情報で、次のいずれかを実行します。

- 使用する **Active Directory** 用にホストの設定および有効化が **Active Directory** ですで行われている場合は、**Active Directory を使用する** チェックボックスを選択します。それ以外は、**iDRAC 資格情報**の設定に進みます。


- **Active Directory ユーザー名** テキストボックスに、ユーザー名を入力します。ユーザー名は、ドメイン\ユーザー名、ドメイン/ユーザー名、またはユーザー名@ドメインのいずれかの形式で入力してください。ユーザー名は **256** 文字に制限されています。ユーザー名の制限については、**Microsoft Active Directory マニュアル**を参照してください。
- **Active Directory パスワード** テキストボックスにパスワードを入力します。パスワードは **127** 文字に制限されています。
- **パスワードの確認** テキストボックスにパスワードを再度入力します。
- 証明書チェックのドロップダウンリストから、次のいずれかを選択します。


* 今後すべての接続の際にホスト証明書をダウンロードおよび保存して、証明書の検証を行うには、**有効**を選択します。

* ホスト証明書のチェックを行わず、保存しない場合は、**無効**を選択します。

- **Active Directory** なしでホスト資格情報を設定するには、次のいずれかを行います。

- **ユーザー名** テキストボックスにユーザー名を入力します。ユーザー名はルートである必要があります。
- **パスワード** テキストボックスにパスワードを入力します。パスワードは **127** 文字に制限されています。

 **メモ:** iDRAC Express または Enterprise カードがないサーバーでは、iDRAC テスト接続結果は、このシステムには該当しませんが表示されます。

 **メモ:** OMSA 資格情報は、ESX および ESXi ホストに使われたものと同じです。

- **パスワードの確認** テキストボックスにパスワードを再度入力します。
- 証明書チェックのドロップダウンリストから、次のいずれかを選択します。

* 今後すべての接続の際にホスト証明書をダウンロードおよび保存して、証明書の検証を行うには、**有効**を選択します。

* ホスト証明書のチェックを行わず、保存しない場合は、**無効**を選択します。

8. **次へ**をクリックします。

9. 接続プロファイルのテストページで、次のいずれかを行います。


- テストを開始するには、**選択したテスト**をクリックします。その他のオプションはアクティブになっていません。
- テストを中止するには、**すべてのテストを中止**をクリックします。

10. プロファイルを完了するには、**保存**をクリックします。

11. イベントとアラームの設定を続けるには、**保存して続行**をクリックします。


イベントおよびアラームの設定ウィザード


設定ウィザードを使用して、または **Dell Management Center**、イベントおよびアラームの設定オプションからイベントおよびアラームの設定を行います。

 **メモ:** Dell PowerEdge 第 12 世代サーバーより前のホストでは、vCenter でホストイベントを表示するため、OMSA で仮想アプライアンスがトラップ宛先に設定されている必要があります。

イベントおよびアラームを設定するには、以下を行います。

1. **設定ウィザードの イベント掲載レベル**で、以下のいずれかを選択します。
 - すべてのイベントを掲載をしない - ハードウェアイベントはブロックされます。
 - すべてのイベントを掲載する - すべてのハードウェアイベントが掲載されます。
 - 重要および警告イベントのみを掲載する - 重要または警告レベルのハードウェアイベントのみが掲載されます。
 - 仮想化関連の重要および警告イベントのみを掲載する - 仮想化関連の重要および警告イベントのみが掲載されます。これはデフォルトのイベント掲載レベルです。
2. すべてのハードウェアアラームとイベントを有効化するには、**Dell ホストのアラームを有効にする** チェックボックスを選択します。

 **メモ:** アラームが有効化されている Dell ホストは、重要イベントに対応して保守モードに入ります。
3. 表示されるダイアログボックスで **続行** をクリックしてこの変更を確定するか、または **キャンセル** をクリックします。

 **メモ:** この手順は、**Dell ホストのアラームを有効にする** が選択されている場合にのみ表示されます。
4. すべての管理されている Dell サーバーで、デフォルトの vCenter アラーム設定を復元するには、**デフォルトのアラームの復元** をクリックします。

変更が有効になるには、最大 1 分間かかることがあります。
5. ウィザードを続けるには、**保存して続行** をクリックします。

プロキシサーバーの設定ウィザード


設定ウィザードまたは後に Dell Management Center の **設定** → **プロキシ** ページでプロキシサーバーを設定します。

プロキシサーバーを設定するには、以下を行います。

1. **HTTP プロキシの設定ウィンドウ**で以下のいずれかを行います。
 - プロキシサーバーを使用しない場合は、**保存して続行** をクリックします。
 - プロキシサーバーを使用する場合は、**設定** で **プロキシサーバーのアドレス** を入力します。
2. **プロキシポート番号**を入力します。
3. 必要に応じて、**資格情報が必須です**チェックボックスを選択します。
4. **資格情報が必須です**を選択した場合は、以下を行います。
 - a. **プロキシユーザー名**テキストボックスにプロキシユーザー名を記入します。
 - b. **プロキシパスワード**テキストボックスにプロキシパスワードを入力します。
 - c. **プロキシパスワードの確認**テキストボックスにプロキシパスワードを再入力します。
5. **プロキシでプロキシを使用する**チェックボックスを選択します。
6. これらのオプションを保存して継続するには**保存して続行**をクリックします。

インベントリジョブのスケジュールウィザード

インベントリスケジュール設定は、設定ウィザードからの実行も、**Dell Management Center** → **設定** オプションからの実行も、ほぼ同じです。唯一の違いは、ウィザードではインベントリを直ちに実行する場合に選択するオプションが提供されることです。

 **メモ:** OpenManage Integration for VMware vCenter で今後もアップデートされた情報を確実に表示するようにするため、定期的なインベントリジョブをスケジュールすることをお勧めします。インベントリジョブは最小限のリソースのみを消費し、ホストのパフォーマンスを劣化させることはありません。

インベントリジョブのスケジュールには、以下を行います。

1. **設定ウィザードのインベントリのスケジュール** ウィンドウで、以下の中から1つを行います。
 - インベントリスケジュールを実行するには、**選択した曜日** をクリックします。
 - インベントリスケジュールを実行しない場合は、**Dell ホストではインベントリを実行しない** を選択します。
2. **選択した曜日** を選択した場合は、以下を行います。
 - a. インベントリを実行したい各曜日の横にあるチェックボックスを選択します。
 - b. テキストボックスに、時刻を HH:MM フォーマットで入力します。
入力する時刻は現地時間です。したがって、仮想アプライアンスのタイムゾーンでインベントリを実行したい場合は、現地時間と仮想アプライアンスのタイムゾーンの時間との差を計算して、適切な時刻を入力してください。
 - c. ウィザードの完了後、インベントリタスクを自動的に実行するには、**ウィザードの最後にインベントリを実行します (推奨)** チェックボックスを選択します。
このチェックボックスは、選択した曜日のチェックボックスが選択された場合のみ表示されます。
3. 変更を適用して継続するには、**保存して続行** をクリックします。

保証取得ジョブウィザードの実行

保証取得ジョブの設定は、ウィザードから行う場合と、**Dell Management Center** → **設定** オプションから行う場合もほぼおなじです。また、ジョブキューから保証取得ジョブを今すぐ実行することができます。

保証取得ジョブを実行するには以下を行います。

1. **設定ウィザードの保証のスケジュール** ウィンドウで、以下のいずれかを行います。
 - 保証スケジュールを実行するには、**選択した曜日** をクリックします。
 - 保証スケジュールを実行しないようにするには、**保証情報を取得しない** を選択します。
2. **選択した曜日** を選択した場合は、以下を行います。
 - a. 保証ジョブを実行したい各曜日の横にあるテキストボックスを選択します。
 - b. テキストボックスに、時刻を HH:MM フォーマットで入力します。
入力する時刻は現地時間です。したがって、仮想アプライアンスのタイムゾーンでインベントリを実行したい場合は、現地時間と仮想アプライアンスのタイムゾーンの時間との差を計算して、適切な時刻を入力してください。
3. 変更を適用して継続するには、**保存して続行** をクリックします。

展開資格情報の設定ウィザード

展開資格情報は、最初の検出から展開プロセスの終了まで、iDRAC を使ってベアメタルシステムとセキュアな通信を行うために使用されます。展開が完了すると、資格情報は展開ウィザードから接続プロファイルでベアメタルシステムに一致するものに変更されます。展開資格情報に変更されると、その時点以降に新たに検出されるシステムは新しい資格情報でプロビジョニングが行われます。ただし、変更前に検出されたサーバーの資格情報には影響を及ぼしません。

展開資格情報の設定には、以下を行います。


1. **展開資格情報** ウィンドウで、資格情報を表示または変更できます。ベアメタルサーバーは、これらの資格情報から接続プロファイルで指定されたものに切り替えます。
2. これらの資格情報を変更するには、**ベアメタルサーバー展開用の資格情報** 下で以下を行います。

- a. ユーザー名 テキストボックスでユーザー名を編集します。
 - b. パスワード テキストボックスでパスワードを編集します。
 - c. パスワードの確認 テキストボックスでパスワードを確認します。
3. 特定した資格情報を保存して設定ウィザードを続けるには、**保存して続行** をクリックします。

デフォルトのファームウェアアップデートリポジトリの設定 ウィザード


ファームウェアリポジトリ設定には、展開サーバーのアップデートに使用されるファームウェアカタログロケーションが含まれます。ファームウェアの設定は最初にウィザードで設定するか、後で **Dell Management Center** 設定オプションで設定できます。さらに、ファームウェアアップデートも後で **OpenManage Integration** タブから実行できます。

デフォルトのファームウェアアップデートリポジトリを設定するには、以下を行います。

1. **設定ウィザードのファームウェアリポジトリ** で、ファームウェアアップデートのためにデフォルトリポジトリを選択するには、以下のいずれか1つを選択します。
 - **Dell Online**
ステージングフォルダのある、デフォルトのファームウェアリポジトリ (ftp.dell.com) です。
OpenManage Integration for VMware vCenter は選択されたファームウェアのアップデートをダウンロードし、それらをステージングフォルダに保存して、後に必要に応じて適用します。
 - **ローカル/共有リポジトリ**
これは **Dell Repository Manager** アプリケーションで作成されます。このローカルリポジトリは、Windows ベースのファイル共有で見つけることができます。
2. **ローカル/共有リポジトリ** を選択した場合、以下を行います。
 - a. 次のフォーマットを使って、**カタログファイルの場所** を入力します。
 - xml ファイル用の NFS 共有: `host/share/filename.xml`
 - gz ファイル用の CIFS 共有: `\\host\share\filename.gz`
 - xml ファイル用の CIFS 共有: `\\host\share\filename.xml`
 - gz ファイル用の CIFS 共有: `\\host\share\filename.gz`
 - b. CIFS 共有を使用する場合、**ユーザー名**、**パスワード**、**パスワードの確認** を入力します。両パスワードは一致する必要があります。これらの欄は CIFS 共有を入力する場合にのみアクティブになります。
 **メモ:** 共有ネットワークフォルダのユーザー名/パスワードには、@ 文字は使用できません。
 - c. 入力情報を確認するには、**テストの開始** をクリックします。
3. この選択を保存して **設定ウィザード** を継続するには、**保存して続行** をクリックします。

OMSA リンクの有効化ウィザード

OpenManage Integration for VMware vCenter 仮想アプライアンス内で **OpenManage Server Administrator (OMSA)** を起動するには、**OMSA Web Server** のインストールと設定が必要です。**Web Server** のインストールおよび設定に関する手順については、『*Dell OpenManage Server Administrator Installation Guide*』（Dell OpenManage Server Administrator インストールガイド）を参照してください。

 **メモ:** OMSA は Dell PowerEdge 第 12 世代サーバーより前の Dell サーバーにのみ必要です。

OMSA を使用して、以下を行うことができます。

- vCenter エレメント（詳細センサ/コンポーネントレベルの正常性情報）の管理。

- コマンドログおよびシステムイベントログ (SEL) の消去。
 - NIC 統計情報の取得。
 - OpenManage Integration for VMware vCenter が選択したホストからのイベントをキャプチャしていることを確認します。
1. 設定ウィザードの **OpenManage Server Admin** ページで **OMSA Web Server** の URL テキストボックスを使って OMSA URL を入力します。HTTPS を含む完全な URL を入力する必要があります。
 2. この URL を保存して設定ウィザードを終了するには、**終了** をクリックします。

Dell iDRAC 自動検出および初期始動の設定

自動検出が有効な状態でアプライアンスを工場から注文しなかった場合、手動で行います。

トラップを送信するための OMSA エージェントの設定

ESX ウェブサイトにある OMSA エージェントのインストールおよび設定には、OMSA エージェントが OpenManage Integration for VMware vCenter 仮想アプライアンスにトラップを送信するための詳細手順の他、サンプルのスクリプトが含まれています。これは次の URL にあります。

<http://en.community.dell.com/techcenter/systems-management/w/wiki/1760.openmanage-server-administrator-omsa.aspx>


NFS 共有の設定

OpenManage Integration for VMware vCenter で、バックアップと復元操作、ファームウェアアップデート用、およびスレージングフォルダとして NFS 共有を使用するには、完了する必要がある特定の設定があります。CIFS 共有には追加設定を行う必要はありません。

NFS 共有の設定には、以下を行います。

1. NFS 共有をホストしている Linux または Unix OS マシンで、`/etc/exports` を編集して `/share/path <アプライアンス IP> (rw) *(ro)` を追加します。
これにより、仮想アプライアンスは完全に共有の読み書きができるようになりますが、他のユーザーは読み取り専用となります。
2. nfs サービスの開始：

```
service portmap start service nfs start service nfslock status
```


 **メモ:** 上記の手順は、使用している Linux ディストリビューションによって異なる場合があります。
3. すでにいずれかのサービスが実行されている場合は、以下を行います。

```
exportfs -ra
```

設定情報の詳細について

OpenManage Integration for VMware vCenter の設定、管理、および展開オプションに関する完全ガイドについては、『OpenManage Integration for VMware vCenter User's Guide』（OpenManage Integration for VMware vCenter ユーザーズガイド）を参照してください。